

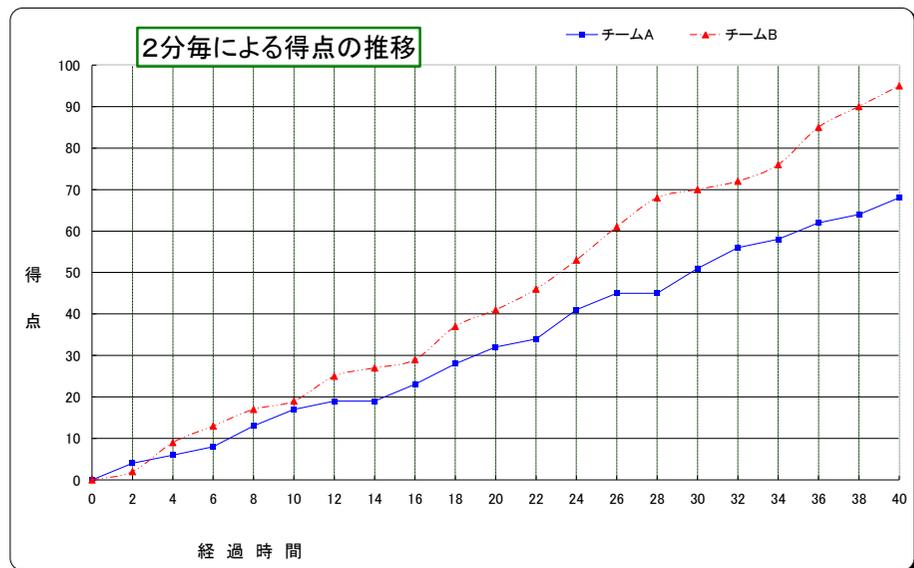
平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月4日(土)
本庄シルクドーム
Bブロック2回戦

チームA 県立太田東 (群馬)	68	{	<table border="0"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>15</td><td>2nd</td><td>22</td></tr> <tr><td>19</td><td>3rd</td><td>29</td></tr> <tr><td>17</td><td>4th</td><td>25</td></tr> </table>	17	1st	19	15	2nd	22	19	3rd	29	17	4th	25	}	95	チームB 県立宇都宮工業 (栃木)
17	1st	19																
15	2nd	22																
19	3rd	29																
17	4th	25																

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	松田 開夢	18	0	9	7	15	4	5	2	1	6	1	8	0	4
5	齊藤 響	21	0	0	9	19	3	4	3	5	13	4	1	1	3
6	湯澤 響	13	0	1	6	18	1	2	3	3	5	1	3	0	2
7	平田 貴士	0													
8	関根 一輝	6	0	0	3	7	0	1	2	2	1	1	2	0	5
9	井樺 将大	0	0	0	0	3	0	0	0	1	2	0	0	0	1
10	牛久 稜太	0													
11	吉田 智博	0													
12	小林 純也	0													
13	須永 純平	10	2	7	2	2	0	3	1	4	0	1	1	0	4
14	太田 詩紋	0													
15	田村 圭吾	0													
16	須賀 翼	0													
17	新井 大智	0													
18	福田 理久	0													
コーチ	穴原 博之														0
		68	2	17	27	64	8	15	11	16	27	8	15	1	19
		確率	11.8%		42.2%		53.3%			計	43				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	渡辺 翔太	26	5	16	4	8	3	3	2	1	5	3	4	0	1
5	深田 匠満	21	0	1	10	18	1	1	1	4	12	4	3	1	2
6	安納 駿	22	0	0	11	25	0	2	3	4	4	0	2	1	1
7	藤井 時生	7	1	7	2	4	0	0	5	0	0	1	3	0	1
8	三河 寛太	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	田代 航	6	0	0	3	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0
10	打田 大騎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
11	小野恭士朗	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12	三原 広大	0													
13	伊藤 学	2	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0
14	宇梶 温哉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	春山 歩夢	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
16	山口 湧史	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	小島 優生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	相馬 俊介	8	0	0	4	6	0	0	0	4	7	1	5	1	3
コーチ	千村 隆														
		95	7	26	35	68	4	6	11	13	30	10	18	3	11
		確率	26.9%		51.5%		66.7%			計	43				



戦評

第1P 両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。太田東、宇都宮工業ともに高さは無いもののボールの展開が早い。太田東は、#4や#5のジャンプシュートやドライブで得点を重ねる。一方の宇都宮工業は、#5のジャンプシュートやドライブなど個人技で得点するだけでなく、#7の3Pなどバランス良く得点し、17対19と宇都宮工業リードでペースを掴む。

第2P 変わらず早い展開で試合が動くが、お互いにターンオーバーが目立ち、点差は変わらない。しっかり主導権を握りたい宇都宮工業は、#4がアシストで貢献し、#5や#6が得点を積み重ねていく。太田東は、激しいディフェンスで相手にミスさせることに成功するが逆転することができない。太田東は、残り7:31にタイムアウトを請求するが、流れを変えることができない。しかし、後半になると宇都宮工業のファールが増え、第2Pだけで4回フリースローを与えてしまう。フリースローで少しずつ得点を積み重ねていくが、宇都宮工業もペイント内にボールを集めてドライブしたり、外角のシュートを着実に決めたりするなど32対41とリードを保ったまま前半を終了する。

第3P 前半同様に早い展開で試合が動くが、太田東は#5を中心にペイント周辺での攻撃が増える一方、宇都宮工業は、#4の連続3Pや#6のジャンプシュートなど外角のシュート中心に得点を積み重ねていく。太田東は、リバウンドからファーストブレイクを狙ったり、ドライブからセンターヘアアシストしたりするなどして得点するが、51対70とリードが広がる。

第4P 宇都宮工業は、ディフェンスを2-3ゾーンディフェンスに変更し、ペイント周辺での攻撃に対応する。外角のシュートを決められる場面はあるが、太田東はゾーンディフェンスを攻略することができない。最後まで走り抜いた太田東であったが、宇都宮工業#4のアシストや3P、#5の個人技に翻弄され、終始リードを掴むことができず、宇都宮工業が68対95で勝利した。

記録者: 塩川優太

主審 山崎 人志 副審 立花 正司